

## 多賀城グルメブランド「しろのむらさき」

奈良時代には、国府が置かれ陸奥国を統治する拠点として栄えた多賀城。そこには、動乱の世を生きる人々の命を支えた「古代米」があった。小ぶりの粒、深い紫色の表皮には豊富な栄養素を蓄えている。

歴史を重ね、駅前を中心に進化した表情を見せる多賀城市。市観光協会では市内の飲食店や事業者と共に開発会議や試食を何度も繰り返し古代米を使った商品開発を行ってきた。炊いたり、蒸したり、焼いたり、揚げたり、創意工夫し、すべての商品とメニューに想いや情熱が込められている。



これらの商品が市の名産品として、多くの方にファンになっていただくため、愛称を「しろのむらさき」と命名、グルメブランド化を行った。これは多賀城の「城」と、古代米の「紫」を組み合わせでできた言葉だ。ロゴマークは、「米」の文字をキラリと輝くデザインとした。

←ロゴマーク

現在は、サラダ、おかゆ、麺やチャーハンなどのメニュー、ケーキや和菓子などのスイーツ、お酒、スープなどを「しろのむらさき」商品として認定している。多賀城にお越しの際は、ぜひお楽しみください。

詳細については、多賀城市観光協会のホームページに掲載されている。